

市民公開特別講座

大会2日目 9月3日(日) 13:00~14:00 ホール

突然、妻が倒れたら —家族の立場から介護社会最前線を斬る—

講師 松本 方哉

介護ジャーナリスト・元ニュース JAPAN キャスター

1956年生まれ。

1980年、フジテレビ入社。

報道局記者として官邸や防衛庁、担当、ワシントン特派員などを務める。

湾岸戦争、米同時多発テロ、アフガン戦争、イラク戦争などでは情報デスクとして活躍。その後、滝川クリステルさんとタッグを組んで、夜のニュース「ニュース JAPAN」のアンカーを6年務める。

専門は国際安全保障問題、日米関係、米国政治と外交。

2007年末、妻がくも膜下出血で倒れ、介護中心の生活に。妻の介護を通じ、医療や介護問題をジャーナリストの視点から見つめ続けている。

FCCJ=日本外国特派員協会会員、日本マス・コミュニケーション学会会員。

突然、妻が倒れたら —家族の立場から介護社会 最前線を斬る—



松本 方哉

介護ジャーナリスト・元ニュース JAPAN キャスター

「突然、妻が倒れたら」は、当時フジテレビの夜のニュース番組「ニュース JAPAN」のキャスターで解説委員でもあった松本方哉（まさや）氏が、2007年11月末に妻を襲った突然のくも膜下出血の発症で麻痺と高次脳機能障害を負った介護生活の日々の緊張と不安、怒りと涙をジャーナリストの目で綴った本のタイトルである。本市民公開特別講座に登壇する松本氏は、いまもなお妻の介護をしながら、ジャーナリストとして働く中で、当時の怒涛のような日々を振り返りつつ、その頃の思いを吐露していくことで、突然に妻という家庭の司令塔が倒れた家族に何が起きるのかを、参加者は追体験することになるであろう。その中から参加者が気づくこと、学ぶことは少なくないはずである。

重苦しい介護生活との戦いの中で、松本氏は、2025年に日本社会を襲うであろう超高齢化の津波のような動きの中で、被介護者と介護家族たちが、ひいてはまた、国民一人ひとりが、「介護」という壁に立ち向かうことになることに気がついたと話しており、その際に、被介護者、介護家族、医療関係者やリハビリ医療に携わる人々、地域、行政が、それぞれの立場で、何を突きつけられ、どんな事態に直面しなければならないかを、これまでの取材から描き出し、その上で、では、どうその危機に立ち向かって行くべきなのかを講演の中で提言する考えだ。

重い高次脳機能障害を負った妻の介護やリハビリ、自身の仕事、子息の養育を通じて体験した医療、福祉、介護制度などの問題点を「家族の立場」から鋭く語る講座である。注：「突然、妻が倒れたら」（新潮社）刊